

文旦保育園とルドルフ・シュタイナー

文旦保育園では、良い環境は良い子をつくる、と指導されたルドルフ・シュタイナーの教育を主体に勉強しながら園児の指導を行っております。

文旦保育園と文旦ちゃんにまつわる

ふぢ子は若い夫人と満州にいられる通信官の留守を守っていました。やっと九歳でした。非常に貴族的な上品な美しい子でした。私の室へ遊びに来るときは必ず夫人の許しが出なければ来ませんでした。紅茶一杯でも夫人にのんでもいいかと問ひに行きました。このような厳格な子でした。そのうちある事情からして小生の生活はだんだんに苦しくなりかけたのもそのころでした。二つのリングゴヤミカンを食べふ人など荒粗な詩ばかり作っていました。

私は終日外室せず此のいとけない少女と遊びくらししました。「おじさん郵便が来てよ。まあまだ寝ているの変な人。」などとしかられることもありました。私の奉公する千地面垂は次第にこうじ、ある日には西洋絵合せをしたり上野の動物園へ白い熊を見に行ったりしました。もう、そのころは彼女の学校から帰るのが待ち遠しくて門のところまで良く迎へにゆきました。

私はふぢ子をボンタン、ボンタンと呼びました。寒い北国に生れた私はザポンのことをボンタンという鹿児島

あたりの温和な風光を、よくこの小さな娘からききました。「ええ大きなミカンが実つてよ。まんまるい、こんなに大きい。」などとその形を示してくれたりしました。「ボンタン。上野へゆかう」と言うとき、「ボンタンってあなたのことよ。あなたがボンタンよ。きつとよ。」

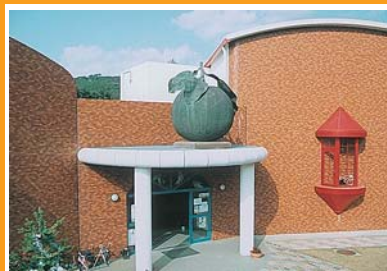
しまひに何方がボンタンか判らなくなりしました。「ボンタン」と呼ぶと「ボンタンなあに。」と問ひかへされました。夫人は若い美しい人でした。ときどき茶なぞすすめられましたが、私はいつも余り長居はしませんでした。けれど私の国元のアンヘンから来る手紙などを取次いでくれて私はその女ことなぞ話すこともありました。そのたびごとに夫人は満州にいられる通信官のことを話されました。

ある氷の張った二月の午前でした。私はふぢ子に魚の絵をかいて見よと申しました。ふぢ子は算用数字の8の字をかいて、ひれをつけ尾をつけ眼玉を入れて私のすぎな魚をかいてくれました。私はその絵を机のひき出しに収めると裂いてしまつてくれと言ひま

す。あとで捨てるからと言つて一時間も経つと又裂いてしまへと命ぜられました。私はほしい思ひをしながら名書レオナルド・ダ・ビンチを裂いてしまいました。私の肩にもたれているふぢ子から非常な神性香気をかぎつけたのでした。可愛い本統に美しい子だどつくづく思ひました。その日は国元のアンヘンへさかんに思慕焦念の手簡をかいて送りしました。

私はたうてい東京にいる気がしなくなりかけました。もう街も建築も酒場も何も彼も嫌になりました。どこか静かな山間へでも行つて見たくなつた矢先私はとうとう未見の萩原さく太郎氏の利根川へ旅立つことにしました。その出発の日の夕食に夫人から招かれ、ふぢ子および二人の小弟と都合五人で温かな夕食を食べました。ふぢ子は私の発つときに小さなおじぎをして別れの言葉を述べました。夫人は鹿児島へ近距離、主人も国元へ帰つてから再び東京へ来るからと申されました。そして鹿児島の所番地をきいて別れました。

第12号につづく



世界で有名な中村晋也先生作
直径2mの文旦



作家室生犀星さんが大変いとしく
かわいがりました文旦ちゃん
(山元ふぢ子)も玄関で迎えます

上の作品は平成19年度文化勲章を頂いた中村晋也先生作の芸術作品です。
阿久根市観光の一つにお加え下さい。

世界一大きなぼんたん(ブロンズ)がある

社会福祉法人 北薩福祉会
ぼんたん

文旦保育園

阿久根市脇本637

TEL 75-3310

ホームページ <http://www3.synapse.ne.jp/bontantyan/>